

# 協働によるシナジー効果

3団体の強みを活かし、ハード面（環境教育・教材）、ソフト面（人材育成）の両面から、環境教育を広く展開



## ● 日本環境教育フォーラム JEEF

環境教育の我が国のパイオニア的存在であり、国内外での学校教育現場向けの環境教材制作や教育を軸とした保全活動に強み。

## ● バードライフ・インターナショナル東京 BirdLife International Tokyo

現地の政府やNGO、コミュニティとも緊密な関係を築いており、鳥の保全を核とした生態系保全に強み。

## ● コンサベーション・インターナショナル・ジャパン Conservation International Japan

科学、パートナーシップ、現場での実践を柱に、自然の保全を通じたコミュニティの持続的な福祉向上に強み。

# 3団体の強みを活かした幅広い取り組み

アジア・太平洋地域を広くカバーした事業範囲  
幅広い階層における人材育成

1

フィールドでの環境  
教育資料等の作成と  
現地人材の育成

2

都市部のユースの  
人材育成とフィール  
ドとの交流

3

広く一般への  
コミュニケーション



# 3つの階層に対する人材育成プログラム

## 1 フィールドでの環境教育資料等の作成と現地人材の育成

### (1) 環境教育教材・普及啓発資料

- 環境教育用教材の制作。
- 映像資料制作。
- 持続可能な自然資源利用促進資料作成。
- 現地実施のPDCAの徹底。

### (2) 現地人材育成

- 地域における教育・啓発活動の実施。
- 若手リーダー候補育成プログラムの実施。

ブータン	【湿地】『オグロヅルと地域住民の共生』
ベトナム	【森林】『森林生態系の保全を通じた環境教育』
カンボジア	【湿地】『オオヅル保全と地域住民の環境教育』
インドネシア	【森林】『里山保全の伝統的知見の共有と活用』
ニューカレドニア	【環礁】『世界遺産ラグーンでの参加型マンタ生態系調査』
サモア	【島嶼】『サモア・ボヤジング・ソサイエティー』

## 2 都市部のユースの人材育成とフィールドとの交流

### (1) 環境リーダーシップ講座（仮称）

- 世界トップクラスかつ環境問題の最前線で活躍する実務家による、短期集中講座。
- 各都市の域内、国際的な立ち位置とポテンシャルも考慮したカリキュラムを開発。
- 先進企業でのインターンシップの検討。

実施国・地域	間接的に生態系サービスの恩恵を受ける都市の大学生～大学院生。 ※シンガポール、東京、香港など。
--------	--

### (2) フィールド・インターンシップ

- 本申請事業が対象とする6つのプロジェクトでのフィールド実習。
- 地域コミュニティにおける交流プログラム。

実施国	ブータン	ベトナム	カンボジア
地域	インドネシア	ニューカレドニア	サモア

## 3 広く一般へのコミュニケーション

### (1) 国際ワークショップ・シンポジウムの開催

- 本申請事業で獲得した成果や知見のプロジェクト参加者間での共有。
- 本申請事業の成果の一般への周知と共有。
- プロジェクト実施6カ国・地域からのユース参加者の招聘。

### (2) 既存のSATOYAMAイニシアティブや生物多様性活動推進組織との連携

- IPSIの協働取組申請、定期会合における報告会の実施要請など。

### (3) 専用ウェブサイトの構築

#### 専用WEBサイト

#### コンセプト

階層① 教材の共有

階層② 活動報告

階層③ 成果の共有

#### 動画配信

プロジェクト進捗に合わせて、随時更新  
(3年間更新+アーカイブ継続公開)